

< 6月標準号 >

無断拝借 高村薫企画



10年前に死んだ人が生き返って目の前に現れました。
その人にこの10年のことを話してあげてください。

Y U K A

結婚しないとずっと言っていた私が、22歳で結婚したのがちょうど10年前。
結婚してすぐに長男を授かり、6年後に次男を授かりました。
親ばかりだけれど、とっても良い子たちです。何より、私を選んで生まれてきた、
なんて言ってくれるもんだから、育児も報われています。夫は、変わりなく、
とても良く出来た人です。
ま、私と結婚するくらいだから相当完成された人間性を持つてる人ってことです（笑）
結婚を機に、仕事を辞めて10年ちょっと経つけれどなんと、この歳で去年大学に
入学しちゃいました。若い時に、なんでもっと勉強しなかったんだろう！と嘆きつつ
覆水盆に返らず。。
今、泣きながら勉強しています。とはいっても、歳を取ってからの勉強は若い頃の
強いられたものとは違い、なかなか充実しているのも事実です。
そんなこんなで、結局、じっとおとなしくはしてられない相変わらずの私です。

T O M Y J R .

10年前って、1996年（平成8年）てーとお・・・自分はまだ40代になったばかりか。
ここまで書いても自分がその頃何をしていたか、全然、何も思い出せません。
そうか、子供の年齢ならどうだ。上の子は5歳で幼稚園生、下の子は・・・いない。
おーそうかそうか、そういう時期か・・・子供の年齢でようやくイメージが沸いてくる
というのもどうも情けないけど、もうそういうトシなんだな、きっと。
これが、子供の年齢が成人後になればそれも使えなくなるな、きっと。う～ん・・・
あ、全然、本題とは違う方向でしたね。はい、この10年間で語るんでしたね。はい。
では・・・あ、でもやっぱ、何も世の中の変化がイメージできないので、失礼して
データに頼りますね。
と、手元にあったのは「スポニチ プロ野球手帳」ね、はいはい。これで説明しましよ
うか。これを見ると、あなたが他界した10年前の1996年はセ・リーグの覇者が長嶋・
巨人で、パ・リーグの覇者は、仰木・オリックスで、オリックスが日本一？うわあ、

これは隔世の感がありますね・・・

ええとね、この10年間でいえば、まず、その日本一監督の仰木さんが亡くなりました。日本一のオリックス・ブレーブスは、その後一度もリーグ優勝できずに、なんと近鉄バファローズと合併しました。え、信じられないって？そりゃそうでしょうねえ・・・。それから、長嶋巨人は4年後の2000年に再度リーグ優勝し、王監督率いるダイエーホークスとのON対決を制して日本一になりました。しかし、その後、長嶋監督は原監督にバトンタッチし、オリンピック代表監督に就任しながら脳梗塞で倒れてアテネで指揮を執れませんでした。今もリハビリ中で言語障害でしゃべれない様子です。

それから、この1996年をベースに考えると意外なことでしょうが、セパともに下位のBクラスのチームがその後、大躍進しています。その後の9年間で1996年セ・リーグのBクラスだった3チームが過半数の5回優勝（ヤクルト2回、横浜1回、阪神2回）していますし、パ・リーグもBクラスの3チームが同じく5回優勝（近鉄1回、ロッテ1回、ダイエー3回）しています。

そして、この10年間で一番大きかったのは球界の再編成でしょうかね。

先ほどお話したように近鉄が身売りの果てにオリックスと合併し、東北に新球団が誕生しました。さらに昨年からはセ・パ交流戦が公式戦として行われるようになりました。そして、昨年からはアジア・シリーズがスタートして日本一のロッテが初代アジア王者となり、野球のワールドカップを標榜した「ワールド・ベースボール・クラシックス」が今年行われて日本が世界一の座についたのもこの10年間で大きなトピックスでしょう。

また、オリックスのイチローはメジャーリーグのマリナーズに移籍し、メジャーリーグの年間安打記録を塗り替えるなど大活躍、巨人の松井や西武の松井、ダイエーの井口なども続々メジャー入りして日本人メジャーリーガーの活躍が日常化したことも、この10年間でも大きな変化でしょうね。

ということで、70年の歴史を持つ日本プロ野球界のこの10年を振り返ってみました。え？そういう企画でよかったんですけどっけ？



うさおが大学生だった頃、東京教育大の彫塑科に在籍中のN君が交通事故で亡くなった。

在る日、お節介焼きのK君が個人的な高校の同窓会を開くよって言ってきた。新橋だつて…。行って見たらそのお店にN君が来ていた。彼だけ大学生の顔をしていた。

「どうよ？　ここ50年位会ってないけど、元気だった？」

「元気なわけ無いじゃん。死んだんだよ。死んだの。怖い話だけどトラックの排気管がここに刺さったんだぜ。」

彼はそう言って、自分の額を指差した。大学の春休みに友人の車を運転し、中央分離

帯を乗り越え反対車線の大型トラックと正面衝突をした。名古屋での出来事である。

私たちは同じ高校の美術部に籍を置いた同士でN君は部長をしていた。同学年の男子部員は**うさお**と思ひ込みのK君との3人だけで、あとは女性が目一杯と言う大変恵まれた環境でありました。彼は野球部でも活躍していて中々の美丈夫だったため、いつも女性に騒がれていた。

「君のお通夜にいったよ……。」

そう……、N君と仲の良かった高校時代の友人のT君、S君、K君とお通夜に出かけた。

「そう言えば、その夜Sさん来ていたよ。あの人、大人だよ。君の顔を食い入るように見つめていたっけ。その後、ぽつりと言ったよ。“うさお君”は親孝行しなさいね……って。もしかして彼女、君のこと好きだったのかなあ?……」

彼は少し俯いて、顔を上げたときにはやや潤んだ遠い目をしていた。そして焼酎のお湯割に手を出した。

「あんな、N君。ほら、君が連れてきてくれた漫画家志望の髪の毛の長い女の子が居たじゃん。

君んちの近所の……。あの娘と結婚したんだよ。」

「へええ……じゃあ俺が仲を取り持ったんだな。少しは役に立つことをこの世に残してきたかなあ。」

彼は自分の才能を世に問うことなく、形に残るものを見せずにこの世を去った。

「そういえば君は今、美術のほうは何をしているの？まだ、漫画を描いているのかい？

才能ある風に見えたものな。初志は貫徹したの。」

「……。いやっ、なんて言えばいいかね。建築と環境からみのことを、ちょいちょいとね……。」

技術屋の端くれに居ることなど話せなかった。言葉が空回りしていく。烏龍茶ばかり飲んでいて顔が赤らむ。そんな**うさお**を黙って見ていたが、彼は帰るときには背中に羽が生えているかのように、飄々と街の暗闇に消えていった。

Y A Z A W A Y O R G E

十余年前に身罷った母が枕元に現れた。僕が今の家を買ってすぐ世を去った母はついに生きて我が家を訪ねることはなかった。その母が夢の中で我が家を訪ねて来たのだった。これはその記録である。母は筋金入りの出雲弁を話す。そのままでは皆様の理解が得られないかも知れないので相応に標準語に意識した。

僕「電車の予定時刻はもう少し早かったんじゃないの？」

母「そうなんだよ。駅についてすぐ電話したかったんだけど、電話機がみあたらないんでね。」

僕「そう言えば、公衆電話はめっきりすくなくなつたなあ。」

母「東京に来る時はこれ使えって、お前がくれたテレホンカードも役にたたないじゃあないか。駅前の交番でおまわりさんが助けてくれなかつたら困ってたよ。」

僕「おまわりさんもたまには役に立つんだね。」

母「しかしまあ、最近の女の子ったら、電車のなかで平気でジュースやお茶を飲んだりし

とる。あんな行儀の悪い事昔はやらなかったけど。長距離の電車ならともかく、通勤電車の中でだよ！」

僕「電車の中で床にあぐらをかいて坐りこんでいる女子高生なんかいなかったかい？」

母「え〜っ！そんな子がいるのかい。親御さんはどんな心持ちでいるんかね。それより電車に乗ってる殆どの人が神主さんが持つ笏を小さくしたような物を持って、親指をせわしなく動かしてたけどありゃあ何かね？」

僕「それが電話だよ。」

母「何！？電話？！親をからかっちゃいけないよ。だってお前、電話は口で話して耳で聞くもんじゃないか。手で持って目の前において、指でボタンを押すなんて物が電話であるわけないだろう？」

僕「それがそうなっちゃったんだから仕方ないだろ。ほら、僕も持ってるよ。」

母「へ〜え、これがねえ。オヤ小さな眼みたいなものがあるよ。」

僕「あ、それカメラのレンズさ。」

母「何！？カメラ？！だってお前、さっきこれは電話だって言ったはずだよ。どうして電話がカメラなのさ。」

僕「困ったなあ。今ごろは電話にカメラが付いているのが当たり前になったんだよ。おまけにこれは音楽を入れてウォークマンみたいにも使えるよ。」

母「……………」

僕「どうしたの？」

母「それにしてもカメラだったって、フィルムもないし、ウォークマンだったってテープを入れるところもないし……………」

僕「いまどき、フィルムで写真を撮る人なんていないよ。特別な時だけだよ。いいかい、こうやって、カメラモードにして、液晶画面を裏返して、と」

母「あらっ！二人が写ってるよ。自分が写ってるのを見ながら写真が撮れるんだね。」

僕「そうだよ。便利だろう？デジカメって言うんだ。デバカメじゃあないよ。撮ったのをすぐにその場で見れるから後で失敗したってこともないしね。」

母「そうか。乗換の時、電車のそばで写真撮ってる人がカメラを覗き込むような格好をしてないから変だと思ったけど、こういう仕組みだからなのか。だから手を伸ばして写真を撮るんだな。」

僕「お茶が入ったから、まあ飲もうよ。お茶もお菓子も昔の通りだよ。今日は玉露を用意しといたからね。」

母「テレビも昔のままだな。今日は相撲は千秋楽かな。何何？琴欧州？青い目の力士さんかえ。相撲も随分変わったねえ。その内に金髪の行司がさばいて、呼び出しを英語でやるなんて言うんじゃないだろうね。」

……………

こうして十余年振りの親子の会話は続いたのであった。



高村薫さんのこの新聞記事は読んでいない。高村さんの私生活については全く知らないけれど、独身で母親とずっと一緒に暮らしてきた女流作家を想像する。日常生活を送りながら日常の会話の中で日々いろいろ語り合ってきた親子。よき話し相手がいるという事は自分を把握する上で大きな手助けになる。そういう身近な理解者を失った作家さんは戻ってきた母親に語りかけるという架空の状況を設けて自分の10年をきちんと振り返ってみたいのか。それとも作家さんは生き返った母親に10年前に伝え残したことを伝えたいのだろうか。

最近日本映画には甦りものが多い気がする。ある特定地域の住人が大挙して甦る「黄泉がえり」、死んだ妻が戻ってくる「また会いにいきます」、過去に戻って死んだ少女を助ける「この胸いっぱい愛を」。「四日間の奇蹟」などもこのジャンルに入ると思う。ごく親しい人がこっちからあっちの世界に行ってしまったとき、ああすればよかったこうすればよかったという思いがどうしても残る。あの人が生き返ってきたらわたしはあの人にこういうふうに言いたいって言葉を残された人たちはきっとたくさん持っている。その願いが叶う映画を観たり、本を読んだりして、自分の身にも起こるんじゃないかと小さな期待をする。でもね、思いのエネルギーがどうやらなんて言ったってあっちに行った会いたい人になんてなかなか会えないじゃない？ だいたいそれで生き返るなら尾崎豊なんてすぐ生き返ってきちゃいそう。

前に読んだ横尾忠則自伝の唯一覚えている箇所がある。彼が自分の部屋で仕事をしていてふと自分のベッドを見ると誰かが寝ている。自分しかいない部屋に一体誰が、とベッドに近づくと背中を向けて寝ているのは間違いなく亡くなった母だ。彼はぞっとする。霊や不思議なことを信じている彼にとっても突然の母親の帰還は恐ろしいことだった。出てくるなどは言わないけどもっと恐くないやり方で出てきて欲しいと彼は思う。その後横尾氏は帰ってきた母親と話などするような気がするが詳しくは覚えていない。わたしもこの横尾氏の意見には同感だ。帰ってくるのはいいけどあんまり思いはしたくない。高村薫さんの母親もベッドの中に帰還したのだろうか。10年前に亡くなった母親が戻ってきたら、10年分の話がたまっている。

ところでわたしの母親は健在だ。いつでも実家に行けばはつらつとしゃきしゃきと生きている。話したいことがあればこっちの世界でいくらでも話ができる。わたしがあちらの世界から戻ってきてもらってでも話したいなと思うのは、おととしの8月にあっちに行ってしまった友人だ。彼女には何もできなかった情けない記憶がまだ鮮明に残るけれど、戻ってきてくれるのなら会いたいなあと思う。

話すことはたくさんある。たくさんありすぎてうまく文章にできないと試行錯誤しながら、今気が付いた。彼女と出会ってから今年で40年になったんだ！ じゃあまず生き返った彼女に「40周年おめでとう」と言おう。それから「あなたがいなくてつまらない」と言おうかな。なんだか半分になってしまった気持ちだ。いろんなことを求めて生きていた人だと思う。求めるから得られない辛さもあつたし求めるから得る喜びもあつ

た。また会えるかな？またどこかで会えるといいな。

こっちとあっちの境界線は扉を一枚開けるだけ、なんて表現もよく聞く。年を取って扉の向こうに知り合いも増えてきた。わざわざ生き返ってくれなくてもあっちに行く日もそんなに遠い未来じゃない。扉に向かって歩き続ける。未来が近づいてくる。

H I D E H I K O

60代も後半に入った小生には、仮定とはいえ人の生死に係った今回の企画テーマは一寸きついで、「無回答」と考えていたのですが、発想を変えてSFの世界のコールドスリープ（エーリアンなどの宇宙モノによく出てくるヤツです）から覚醒した人がいると考えれば同じことであると気付きました。ウラシマ効果でもよいですね。

10年前というと1996年にそのソーチに入った人がいたということになりますが、対象がはっきりしないと書きづらいですね。講師か助教授クラスの学究の徒で、35歳でスリープして、今は45歳。でも、ソーチのお蔭で、肉体的にはまだ35歳にしか見えない。

話がどんどん逸れています。個人的にはこの年一念発起して大学院博士課程に社会人入学したときです。役職定年が迫っていて、これから少し仕事が楽になるかなという気持ちで踏み切りましたが、会社はそんなに優しくありませんでした。全社の品質管理・信頼性技術を主管していたので、国内の関連会社や海外の現地法人の指導で身を入れて勉強という訳にもいけなく、夜更かし癖がついてしまい、現在まで続いています。その時期は予想もしていなかった教師業になっているので、その人に会うと一寸驚かれるでしょうね。

で、社会的変化をレクチャーしてあげるのがよいのですが、自分でも10年前を思い出しませんね。インターネットの助けを借りて調べてみました。日本は橋本首相の時代、米大統領はクリントンなのですね。社会的に変化が大きいのはケータイ文化でしょうか？ 当時はまだユビキタスが実現するとは思ってもいなかったのでは。小生の専門の安全・安心の研究分野では社会的な危機（リスク）がものすごく増加しているように思います。多分、覚醒したくなかった、もう一寸寝ていたいと言われるのではないのでしょうか。

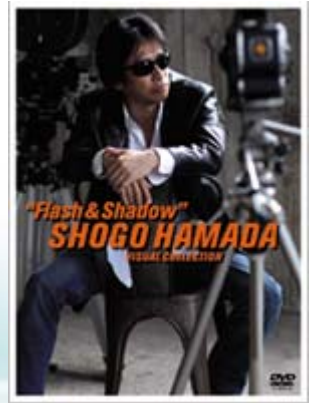
参考に、科学技術に関わる事故（リスク側）と人類のためになる科学技術の成果のニュースを拾い出してクロニクルにまとめてみました。

年	科学技術に関わる事故	科学技術の成果
1996	高速増殖炉「もんじゅ」のナトリウム漏れ事故	宇宙開発事業団（NASDA）H2ロケット打上成功
	積丹半島豊浜トンネル落盤事故	
	岡山県邑久村0157集団食中毒	
1997	島根県沖ロシアタンカー「ナホトカ号」沈没し重油流出	米無人探査機「マーズ・パスファインダー」火星着陸に成功
	名古屋市西区東芝愛知工場地下水からトリクロロエチレン検出	長野（北陸）新幹線営業開始
		米スペースシャトル「コロンビア号」で土井さんが日本人初の宇宙遊泳
		地球温暖化防止京都会議で温室ガス削減目標採択（京都議定書）
1998		韓国熙慶大でヒト体細胞クローン実験成功
1999	ベオグラードの中国大使館へNATOのミサイル直撃	
	横浜市立大病院患者取り違い手術	
	JCO東海事業所でウラン溶液の拡販作業中放射線被爆事故	
	宇宙開発事業団H2ロケット打上失敗	
2000	コンピュータ2000年問題不発	
	文部省X線天文衛星を載せたM5ロケット打上失敗	
	営団地下鉄日比谷線脱線し対向電車と衝突事故	
	電子メールウイルス”I love you”が20カ国に波及	
	雪印乳業大阪工場製低脂肪乳で集団食中毒	
	エールフランスのコンコルド、パリ郊外で初の墜落	
	愛知県日本油脂武豊工場火薬爆発事故、爆風被害大	
	ロシア新鋭原潜「クルクス号」バレンツ海で沈没	
シンガポール航空のジャンボ機が台北国際空港で離陸直後に墜落炎上		
2001	オアフ島沖で宇和島水産高校実習船「えひめ丸」が米原潜に衝突され沈没	ヒトの遺伝子数最大でも4万個と米企業など解読結果を公表
	ニューヨーク市内にアメリカン航空機墜落	宇宙開発事業団H2Aロケット打上成功
2002	雪印乳業関西ミートセンターで豪州産の牛を国産と偽装	2001年の交通事故20年ぶり9000人を割る（8747人）
	エジプトのカイロ発アスワン行き夜行列車で出火、気付かず走行を続け被害拡大	岡山県新見市で全国初の選挙電子投票で開票時間を短縮
	ミスタードーナツが法定外添加物を含む肉まん1300万個販売、1年半事実を隠蔽	
	ウクライナの空軍基地で演技飛行中の戦闘機が見学者の中に墜落	
	中国製ダイエット食品で死者他多数の健康被害	
	日向市の温泉施設でレジオネラ菌集団感染で死者	
	東電柏崎、福島等の原発で自己記録の改ざんや虚偽記載が内部告発で発覚	
	肺がん新薬イレッサによる副作用死多数	

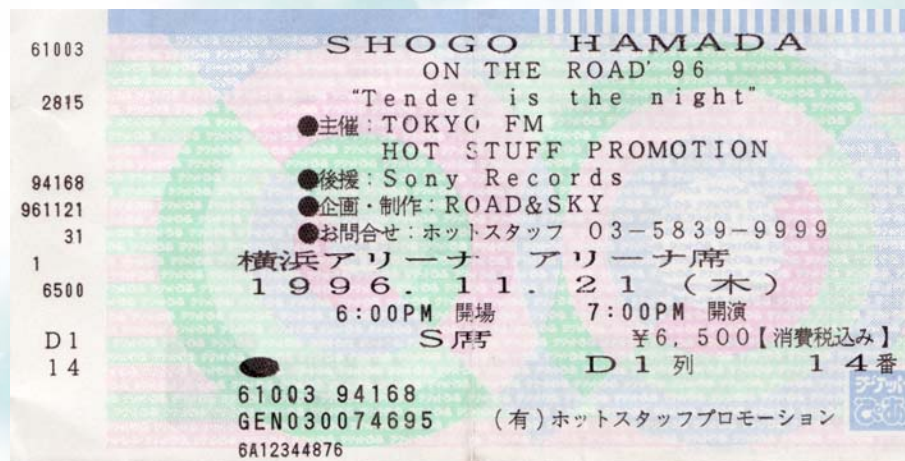
年	科学技術に関わる事故	科学技術の成果
2003	アジア各国でインターネット接続障害同時発生。サーバーテロの疑い	2002年の交通事故死者数さらに低減（8326人）。同年6月施行の改正道交法の影響
	スペースシャトル「コロンビア号」テキサス州上空で空中分解の大惨事	H2A5号機打ち上げ成功。日本初の偵察衛星搭載
	山陽新幹線ひかり号で運転士が8分間居眠り運転	米英日仏独中でヒトゲノムの解読完了共同宣言
	所沢市の東京航空交通管制局のコンピュータシステムダウンで27万人に影響	文科省の小惑星探査機「ミューゼスC」の打上成功。
	アジア地域で原因不明の急性肺炎（後にSARS）発生。WHOの注意報出る	75歳以上の高齢者1005万人に。65歳以上は人口の18.5%を占める。
	全日空のコンピュータシステム障害で150便が欠航し、約10万人に影響	水産総合研究センターが世界で始めてうなぎの卵から成魚まで完全養殖
	米国北東部及びカナダ南東部で大停電発生。ニューヨークは地下鉄ストップ。5000万人の足に影響	住基台帳ネットワーク本格稼働
	エイズウイルス感染者世界で推定4000万人に増大。なおも増加中。	中国初の有人宇宙船「神舟5号」の打上成功。
2004	三菱ふそうトラック・バスは部品の破損によるタイヤの脱落事故リコール	NASA 無人探査船「スピリット」が火星に着陸
	六本木ヒルズ森タワーの自動回転扉に頭部を挟まれ幼児死亡。	
	独：ウィンドウズを攻撃する新型ウイルス「サッサー」の開発者の少年を逮捕	
	ファイル共有ソフト「Winny」の開発者逮捕される	
2005	東武鉄道伊勢崎線竹ノ塚駅付近手動踏切の遮断機誤操作で通行人死亡	宇宙航空研究開発機構（JAXA）H2A7号機打上成功
	「ウイルスバスター」のパターンファイル不具合でパソコンの異常多発	米カリフォルニア工科大ブラウン教授ら太陽系第10番惑星発見
	尼崎市でJR福知山線上り快速速度オーバーで脱線事故	
	日本航空B767-300型機羽田空港着陸時前輪タイヤ脱落	
	茨城県水海道市養鶏場でH5N2型鳥インフルエンザウイルス検出	
	建材メーカー「ニチアス」でアスベストによる肺がんや中皮腫の被害公表／建材他のアスベスト被害問題に発展	
	ロスアンゼルス電力会社で工事配線ミスが原因で2時間半の広域大停電	
	石原産業製の土壌埋め戻し材「フェロシルト」を使った土壌から六価クロムとフッ素検出	
	松下電器産業のFF式石油温風機で一酸化中毒事故発生し、メーカーの回収を決定	
姉齒元一級建築士によるマンションの構造計算書偽装発覚／組織的耐震偽装問題に発展		

T I C A

初めて浜田省吾のコンサートに行ったのが1996年11月21日の横浜アリーナ。その日から私の浜省の10年の歴史が始まる。その半月ほど前に、同じマンションの弓ちゃんが、浜田省吾聴いて！聴いて！とCDを持って来た。浜省の名前はずっと前から知っていたので、浜省？なんで今更・・・拓郎の仲間でしょ、ってなノリだった。そのうえ弓ちゃんが、ちょうど横浜でコンサートをやるからアリーナに行こうってしつこく言うてくる。私はそのコンサートの二日後に引越しを控えていたからまるで気が乗らなかったけど、裏から手を回してみたら1週間前にチケットが取れたので、部屋に埋まっていくダンボール箱を横目に見ながら出かけて行った。そしたらはまった。



すぐにファンクラブに入会し、ライブビデオやCDを購入し始めた。しかし、その時点で19枚のアルバムが出ていたから簡単には揃わないし、メディアの露出が少ない人なので情報も少ないと来てる。それでパソコンを買い、浜省のファンサイトを開いてみた。そこでお友達になったのが、こちらのyukoさんとそちらの由佳ちゃん。よろしくね。…って、蘇ってきたばかりの人に浜省の10年間を語ってどうする。。ま、せっかく蘇ったんだから一緒にコンサートに行こうよ。来年のツアーチケット取るのに協力してね。



浜省以外の10年間は子ども中心だった。社会がどんなに変化しようと、世の中に大変なことが起きていても、ちっとも勉強しないとか、学校さぼってるとか、どこの中学を受けるとか、そんなちっちゃなことが大問題で10年を暮らしてきた気がする。昔は新聞に載るような人になりなさいと言われていたけれど、今は新聞に載ることがないようにと日々祈っている。

